



株式会社ベネッセホールディングス
代表取締役社長 COO

こばやし ひとし
小林 仁

志をもって、社会課題に正面から向き合い、 お客様の「よく生きる」を 圧倒的にご支援できる企業であり続けるために

ベネッセグループは、1955年福武書店の創業にはじまり、国内教育、グローバル教育、介護・保育、生活といった分野で人のライフステージに沿った事業を展開しています。その根幹に共通してあるのは、1990年に発表した企業理念「Benesse（よく生きる）」の存在です。

夢や理想の実現に向かって歩み続けるお客さまに寄り添い、一人ひとりの成長や課題解決を生涯にわたって応援していくこと、それが企業理念「Benesse」＝「よく生きる (well-being)」であり、ベネッセが時代を超えてずっと大切に、追求し続けてきた不変の哲学です。様々な方が人生の節目を乗り越え、その方らしく豊かに過ごして欲しい、その実現をサポートする商品サービスのご提供に、このベネッセの理念に共感する社員が高い志をもって取り組んでいます。

一方で近年、新型コロナウイルス (COVID-19) の影響をはじめ世界は大きく動きました。デジタル技術の急速な発展など社会は大きく変化しましたが、さらにこの先の変化はこれまでよりもはるかに速く、また複雑化していくことが予測されます。

このような中、不変の哲学「Benesse」を実践し、お客さまに役立つ価値を創造し続けるためには、「自分たちは何のために事業活動をするのか」という原点に立ち返り、社員一人ひとりが

目の前のひとりのお客さまと社会の変化をとらえて、今できることを考え行動し続けることが重要です。この社員の力を結集し、未来に役立つ力を高める新たな学びや社会人の能力開発の支援、超高齢社会に向けた介護インフラの構築、アジアを中心とした海外での教育・介護ノウハウの提供など、既存コア事業の進化と新たな領域への挑戦を両輪で加速させていきます。

そしてそのための「デジタルトランスフォーメーション (DX)」を、ベネッセグループ全体で推進していきます。デジタルは決して目的ではなく、手段です。さまざまなデータを活かすことで、よりお客さま一人ひとりの困りごとに向き合い、商品・サービスの「フィット感」を高めることができると考えています。デジタルを活用して次世代の「よく生きる」を実現する、それは豊かな社会の実現に貢献することにつながります。

これまで培ったベネッセ独自の強みと社会が求めるニーズが交わる部分にこそ、ベネッセの存在意義はあります。

今と未来の「よく生きる」社会の実現に向けて変革し、パッションをもって取り組み続けること。

私たちはこれからも、事業を通じて社会課題に真摯に取り組み続け、お客さまを圧倒的にご支援できる企業として、さらなる成長を目指してまいります。